

# 保健医療大学の機能強化に向けた調査検討事業報告書（概要版）

- 保健医療大学（以下、「保医大」という。）は、平成21年4月に開学して以降、県内に多くの保健医療関係従事者を輩出してきているが、保健医療を取り巻く環境変化に対応した人材育成や、施設・設備の老朽化への対応が急務となっている。
- 本報告書は、今後も保医大が本県の保健医療の向上に貢献し続けるために、将来を見据えた機能強化に向けた検討の基礎資料を得ることを目的として、令和6年度「保健医療大学の機能強化に向けた調査検討事業」の委託事業者（一般財団法人日本開発構想研究所）が実施した調査検討内容等について、県が設置した「保健医療大学の機能強化に向けた調査検討会議」（座長：中村丁次 公立大学法人神奈川県立保健福祉大学 名誉学長）において協議を行い、取りまとめたものである。
- 調査検討にあたっては、高校生や保医大在学学生をはじめとする若者や、当事者の目線を重視する観点から、保医大卒業生、保健医療従事者、保健医療機関等にアンケート調査を実施し、取りまとめた参考とした（回答総数：11,419名）。

## 1. 保医大が養成すべき人材像

- 大学・大学院の特色として、学生に対し「専門職教育×多職種×デジタル×国際」をキーワードとした専門性と比較優位性のある大学・大学院教育を提供する。
- 保健医療の現職者に対するリカレント教育の提供、在職のまま通える工夫など広く社会人等にも開かれた大学・大学院とする。
- これらにより学生等に「価値を生み出し時代を切り開く人材」になる環境を提供する。
- 以下の4点は、現在の保医大の教育研究の基本理念であり、その趣旨は、今後も保医大の伝統として受け継いでいくことが考えられる。
  - ① 「高い倫理観と豊かな人間性を持った人材の育成」
  - ② 「健康づくりなどの保健医療に関わるすぐれた専門職の育成」
  - ③ 「地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材の育成」
  - ④ 「千葉県健康づくり政策のシンクタンク機能」
- 大学院は修士課程・博士課程の両課程を設置する。
- 大学院では「保健医療福祉現場、学術界、産業界、行政」の各所で活躍する次の様な高度人材養成を目指す。
  - ① 保健医療分野における先端的な知識と技術を備え、高いリーダーシップと問題解決能力を発揮し、専門職として臨床現場において質の高い保健医療サービスの提供に寄与できる人材
  - ② 臨床現場、ライフサイエンス、グリーン、データヘルス、食品科学などを含む保健医療に関する多様な課題を自ら科学的に探求し、真理の発見、解決策の立案、根拠に基づいた実践等を推進するための研究能力を備えた人材
  - ③ 保健医療に関する知識と技術を活かし、ベンチャーなどの産業界や行政機関等を含む多様な分野で社会の価値の創造に貢献できる人材
  - ④ 地域のニーズを的確に把握し、保健医療の向上に貢献するとともに、後進の育成や教育活動を通じて持続可能な保健医療システムの発展に寄与する人材

## 2. 教育内容と必要な組織等

### ア) 学部・学科の構成や教育内容

- 看護学科は、看護リーダー人材の養成と共に、県内看護職者数の増加への寄与を目指して、定員を増員
- 栄養学科・歯科衛生学科・リハビリテーション学科（理学療法学専攻・作業療法学専攻）は、現状定員維持。引き続き少人数教育による質の高い人材育成を実施
- 活躍の場が広がっている言語聴覚士の不足に対応するため、リハビリテーション学科に言語聴覚療法学専攻を新設

### < デジタル対応の強化 >

- 学部・大学院教育の基盤として、生成AI、シンギュラリティ、数理・データサイエンス、Society5.0等の時代に適合する専門教育に加えて、データの扱いなどを含むこれらのユーザリテラシーを養える教育体制を整える。

### < 国際人教育の強化 >

- 英語教育に関するTOEIC等の活用、近隣の大学、千葉圏域コンソーシアムとの単位互換協定等による外国語教育カリキュラムの拡充、海外大学との協定締結、外国人教員の採用、国際化に関する組織的検討、クロスアポイントの活用などを推進する。

### < 食品栄養科学・グリーン分野対応の強化 >

- 農林水産県として魅力発信や、発酵、機能性食品などに関する教育等を含めていくほか、大学院やシンクタンク機能において、関連分野の研究や食品関連企業等との産学連携に積極的に取り組んでいく。

# 保健医療大学の機能強化に向けた調査検討事業報告書（概要版）

## 2. 教育内容と必要な組織等

### イ) 大学院の設置可能性

- 本県の保健医療分野のリーダー育成等を担うため、**可能な限り早期に大学院（保健医療学研究科）を設置する。**
  - 保健医療イノベーション専攻(修士課程)**：「看護」「栄養」「歯科衛生」「リハビリテーション」「ヘルスサイエンス」を領域として配置し、高度専門人材を養成。
  - 公衆衛生学専攻（修士課程）**：ヘルスサイエンス領域を発展的に改組し、総合的かつ実践的な政策展開を図る人材を養成。
  - 保健医療イノベーション専攻(博士後期課程)**：教育者・研究者を育成。

### ウ) その他必要な機能強化

- その他の必要な機能強化のため、以下の各センターを設置
  - ヘルスイノベーションリサーチセンター(健康政策研究所(シンクタンク))**：学内外のプロジェクト研究、地域連携、研究成果の情報発信等を行う。
  - デジタルヘルスサイエンスセンター**：数理・データサイエンス・AI教育プログラム教育を行うとともに、学内の情報基盤の管理運用等を担う。
  - スキルアップ教育支援センター(リカレント教育)**：キャリア教育、就職支援、卒業生支援に加え、専門職研究等の支援、復職支援等を担う。
- 大学の事務組織は、教学組織との連携協力の関係の確立を図るとともに、業務の専門性や効率性を向上させるため、ITや研究推進、学務事務等の一部の定型業務の外部委託を検討
- 教務システム、研究管理システム等の未導入のシステムについて、事務局の効率化の観点から導入を検討

## 3. 立地及び施設・設備・運営主体

### ア) キャンパス立地

- キャンパス立地は下記6案にて検証

**A-1案**:幕張キャンパス統合・大規模新校舎へ建替え、**A-2案**:幕張キャンパス統合・現校舎大規模改修+中規模新校舎増築、**B案**:仁戸名キャンパス統合・大規模新校舎へ建替え、**C案**:2キャンパス現状維持・大規模改修+中・小規模校舎新築、**D-1案**：2キャンパス再編・学部幕張キャンパス統合・大規模校舎へ建替え、大学院サテライトキャンパス及び現任教育機能を仁戸名キャンパスへ、**D-2案**：2キャンパス再編・学部幕張キャンパス統合・現校舎大規模改修+中規模校舎新築、大学院サテライトキャンパス及び現任教育機能を仁戸名キャンパスへ

- 調査検討会議では「幕張キャンパスへ統合」との意見が多数。在学生・卒業生アンケートでも「幕張に統合すべき」が最多数。

### イ) 施設・設備の整備

- 看護学科定員増・言語聴覚療法学専攻設置・大学院設置等への対応（学内実習室、講義室、演習室等）、ラーニングcommons、教員研究個室、キャンパスアメニティ、バリアフリーへの対応等の機能強化に必要な施設・設備の整備を検証。

### ウ) 公立大学法人化

- メリット・デメリットともあるが、理事長（又は学長）のリーダーシップによる迅速性・柔軟性・戦略性のある意思決定、大学経営のノウハウがある外部の専門人材の役員登用、民間との連携や兼業・兼職の弾力化、法人独自の裁量による機動的で柔軟な運営が可能となるなど、多くのメリットがある。
- 県立大学としての機能と魅力を維持していく上で、法人化後も交付税の繰入や施設整備時の支援をはじめ、資金面での県の関与は必要。
- 地方や小規模の国立大学では、産学連携の研究分野の狭いことや、寄附金の自己収入増も難しく、大学運営が難しいこと等があり、事務部門において大学の魅力アップや渉外・広報、外部資金獲得、県との連携等の機能が重要となる。

## 4. 機能強化の進め方

- 令和10年度 公立大学法人化※、大学院修士課程（保健医療イノベーション専攻）設置
- 令和13年度 新施設供用開始、言語聴覚療法学専攻設置、看護学科定員変更
- 令和14年度 大学院修士課程（公衆衛生学専攻）設置、博士課程設置（整備完了）

※ 施設整備後に法人化する場合は、令和13年度に「公立大学法人化」とする見直し

# 保健医療大学の機能強化に向けた調査検討事業報告書（概要版）

## 保健医療大学の機能強化に向けた調査検討会議 委員名簿

所属	職	氏名	備考
公立大学法人神奈川県立保健福祉大学 (公益社団法人日本栄養士会)	名誉学長 (代表理事会長)	中村 丁次	座長
公益社団法人千葉県医師会	会長	入江 康文	副座長
一般社団法人千葉県歯科医師会	会長	大河原 伸浩	
公益社団法人千葉県看護協会	会長	増淵 美恵子	
公益社団法人千葉県栄養士会	会長	杉崎 幸子	
一般社団法人千葉県歯科衛生士会	会長	高澤 みどり	
一般社団法人千葉県理学療法士会 (千葉県理学療法士・作業療法士・言語聴 覚士連携推進会議)	会長 (副会長)	田中 康之	
学校法人佐野学園神田外語大学	学長	宮内 孝久	
株式会社ちばぎん総合研究所	代表取締役社長	前田 栄治	
公認会計士・税理士小栗事務所	所長	小栗 一徳	
成田市	福祉部障がい者福祉課 心の健康支援係長	前田 由希子	
独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院	中央リハビリテーション部 作業療法士	上山 雅史	
千葉県立保健医療大学	学長	龍野 一郎	
千葉県立保健医療大学	健康科学部 学部長	佐藤 紀子	

## 会議開催スケジュール及び主な協議事項

- 令和6年 9月10日 第1回会議 (保医大が養成すべき人材像について)
- 令和6年 11月11日 第2回会議 (教育内容と必要な組織等について)
- 令和7年 1月22日 第3回会議 (立地及び施設・設備、運営主体について)
- 令和7年 3月 4日 第4回会議 (機能強化の進め方について)

①法人運営組織

監事  
法人の業務を監査

理事会

理事長(=学長が原則)

└ 副理事長

└ 理事

経営審議機関 ※地独法77条1  
経営に関する重要事項を審議

教育研究審議機関 ※地独法77条3  
教育研究に関する重要事項を審議

②教育・研究・診療組織

健康科学部

- └ 看護学科 (100名/学年)
- └ 栄養学科 (25名/学年)
- └ 歯科衛生学科 (25名/学年)
- └ リハビリテーション学科
  - ・理学療法学専攻 (25名/学年)
  - ・作業療法学専攻 (25名/学年)
  - ・言語聴覚療法学専攻 (25名/学年)

大学院

- └ 保健医療学研究科 (修士課程)
  - ・保健医療イノベーション専攻 (10名/学年)  
(看護領域、栄養領域、歯科衛生領域、リハビリテーション領域、ヘルスサイエンス領域)
  - ・公衆衛生学専攻 (10名/学年)  
発展的に改組
- └ 保健医療学研究科 (博士課程)
  - ・保健医療イノベーション専攻 (5名/学年)

図書館

歯科診療所

デジタル  
ヘルスサイエンス  
センター

ヘルスイノベーション  
リサーチセンター  
(健康政策研究所)

スキルアップ教育  
支援センター  
(リカレント教育センター)

③事務局組織

戦略的経営機能

機能強化企画・  
教育研究推進・  
広報機能

教務・学生支援  
推進機能

総務機能

※各センターに  
専従事務職員を配置